

国語科学習指導案

指導者 関西大学 回生

1. 日時 令和4年6月15日(水)5校時(1:50~2:35)
2. 学年・組 第4学年1組(計21名)
3. 単元名 カンジーはかせと巡る、東日本の旅
4. 単元目標

学年別漢字配当表の第4学年までに配当されている漢字を読むと共に、漸次書き、文や文章の中で使う事が出来る。【知・技(1)エ】

5. 指導にあたって

(1) 教材観

本教材は漢字学習のキャラクターである「カンジーはかせ」を用いて都道府県名に用いる漢字を使い、文を作る活動を行う。また、東日本を取り扱う本単元と、西日本を取り扱う「カンジーはかせの都道府県の旅2」で全47都道府県に関する漢字の理解と定着をねらいとしている。

本教材では、児童の日常生活及び将来の社会生活、他教科の学習に必要な都道府県名に関する漢字の定着に加えて、特産品や祭りなどの文化や地理・歴史を知識として同時に学ぶ事も出来る。また、漢字に加えて都道府県名をローマ字で書く課題設定もある。ローマ字の学習は3年生の時に行われているため、本教材で児童のローマ字読み書きの定着度合いを確認しながら学習を進めていきたい。さらに、ローマ字に関しては基礎的な読み書きの技能に加え、長音・促音・撥音・拗音・拗長音の書き方についても都道府県名を用いる事により確認することが出来る。児童にとって身近な都道府県名をテーマにするため、苦手意識を持った児童も取り組みやすい教材と考える。

(2) 児童観

本学級の児童は非常に活発的で明るい、その反面授業の中で行き詰まったり、同じ活動が続くと学習意欲が下がってしまったりすることがある。しかし、興味がある活動に関しては意欲的に取り組み、書く能力にも長けている。

また、クラスでの交流がいつも同じメンバーで、仲良くしている児童以外と交流したり、積極的に話しかけたりする事も苦手である。

都道府県の学習は始めたばかりで、比較的知識は少ない。文化・地理・歴史についても知っている事の方が少ないが、少しずつ地図帳を活用した学習ができるようになってきたところである。

(3) 指導観

本単元の学習には「都道府県名を使った文を作る」という活動があるため、都道府県名の漢字だけではなく、地理・歴史的要素・文化的要素の知識が必要になってくる。これまでの学習や日常生活の中で持っている児童の既有知識を引き出しながらも、教科書・地図帳や ICT 機器等を活用した調べ学習を取り入れ、主体的に学習に取り組みながら情報を収集させるようにしたい。また各自が担当する都道府県は、都道府県に関する知識が少ないという児童の実態を踏まえ、調べたい都道府県ではなく、くじ引きによって調べる都道府県を決めることとする。

また、書いた文章を発表する事で漢字だけでなく、それぞれが調べた内容に関してクラスで共有をする。交流するメンバーが固まってしまうという児童観を踏まえ、最初は交流するメンバーを近くの席と指定し、その後自由にする事で意見の広がりを持たせるようにする。児童が作成した文章に明らかな事実誤認がある場合は、訂正を行うようにするが、知っている知識や調べた知識については称賛をし、児童の心情に配慮しながら訂正していきたい。

さらに、ローマ字を用いて都道府県名を書く活動では、児童のローマ字習熟度を確認した上で、読み書きの定着を目指すと共に、長音・促音・撥音・拗音・拗長音の書き方を改めて確認する。その際、活動を細かく区切りながら学習活動をおこなうことで、児童の集中力と学習の定着を図っていきたい。

6. 評価基準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	① 第4学年までに配当されている漢字を読むと共に、漸次書き、文や文章の中で使っている。 (1)エ		① 進んで第4学年までに配当されている漢字を読むと共に、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている

7. 単元指導・評価計画（全2時間）

次	時	学習内容	学習課題	評価規準
1	1 (本時)	都道府県名を漢字で書き、文を作る。	都道府県名を漢字で書き、文を作る。	第4学年までに配当されている漢字を読むと共に、漸次書き、文や文章の中で使っている。 【知技能】(1)エ 進んで第4学年までに配当されている漢字を読むと共に、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている。 【主】
2	2	都道府県名に用いる漢字を使い、文を作る。 都道府県名をローマ字で書く。	都道府県名に用いる漢字を使い、文を作る。 都道府県名をローマ字で書く。	進んで第4学年までに配当されている漢字を読むと共に、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている。 【主】 第4学年までに配当されている漢字を読むと共に、漸次書き、文や文章の中で使っている。 【知技能】

8. 本時の目標

- 「カンジ—はかせの都道府県の旅1」を通して、第4学年までに担当されている漢字を読むと共に、漸次書き、都道府県名を用いた文や文章の中で使う事ができる。

(1) 本時の展開

時間 過程	学習活動 ○児童 ●教師	指導上の留意点	評価基準 ●評定に用いる評価
導入 5分	○単元の学習のめあてを知り学習の見通しをもつ。 ○都道府県を巡りながら、文を書く。 ○本時の学習課題を確認する。	・扱う都道府県範囲が東日本であることを確認させる。 ・各児童の担当都道府県をくじ引きで決める。	
展開 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">都道府県名を漢字で書き、文を作ろう。</div> ○都道府県に関する情報を集める。 ・特産品、文化、祭り、特徴について。 ●都道府県に関する補足情報を提示する ○都道府県名を使った文を書く ○書いた文をクラスで交流する ○書いた文を発表する	・児童の既存情報を確認しながら学習を促す。 ・情報収集に関する方法が様々である事を伝え、学習を促す ・知らない都道府県については自分の思いや、地図を見てわかる事を文章にまとめても良い事を意識付ける ・交流するメンバーは近くの人→自由とする	●第4学年までに担当されている漢字を読むと共に、漸次書き、文や文章の中で使っている。【知技能】(1)エ ●進んで第4学年までに担当されている漢字を読むと共に、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている【主】 《評価基準》 ・ノート ・発言、発表内容
まとめ 5分	○本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ	・本時の内容を次時につなげる	

カンジーはかせの都道府県の旅1

〈めあて〉

都道府県名を使って、漢字の文を作ろう

○例文

三重県は真珠が有名だ。

・文化・・・特産品、祭り

・歴史・・・で有名だ

・地理・・・山・川・海・場所（くのとなり）

・思い・・・

〈交流〉

児童の作った文を板書する